

粹・いき・マイライフ

インタビュー

初めからファッショニエ界が好きで目指したわけではなく、人との巡り合わせが転機となつて今の私がいます。



服飾史家／株式会社Kaori Nakano代表取締役

中野 香織さん

子供の頃は富山の野山を駆け回り、中学では強豪校の卓球少女に。就職の内定を辞退した末に掴んだイギリス行きが、その後の人生を大きく変えた。ジエントルマン研究に熱中するもファッショニエに憧れた訳ではなく、来た仕事を一生懸命やつていたら、その道の第一人者になつていた。そんな、期待以上の結果を残さないと納得できないという中野さんに、転機となつた人との巡り合わせや考え方、今後についてお伺いした。

小学生は決闘、中学生は卓球少女、今の丈夫な体を作ったのは富山のおかげ

昭和三十七年、富山市で住宅設備関連の会社を営む家庭に生まれ、やんちゃで活発な幼少期を過ごしたという中野さん。「小学校三年生くらいのとき、男子と女子のチームに分かれて決闘ごっこをよくやりました。昔の豊臣秀吉とかの合戦みたいな感じで派手にやつていたので、うちの母親がよくいろんなところへ謝りに行つてたのを覚えます。とはいって、当時はちょっと怪我させたぐらいでは騒ぎもしませんでしたが」と、大らかな時代の出来事だつたと笑いながら語る。

「呉羽中学校の卓球部はその頃強かつたので、団体戦と個人戦でたくさん優勝しました。当時の呉羽中は今と違つて校舎が中庭をぐるりと囲む、すごく素敵なデザインだったんです。大会などで優勝すると、その中庭で表彰式があつて。その時の様子が中学校の思い

スポーツ少女だったという中野さんは、「私が卓球が好きだと言つたら両親が卓球台を買って倉庫に置いてくれて。毎晩、町内会の大人と一緒にやつてました。富山の冬は寒くて雪も降るし、ちょうどいい遊び場でした」

寒い冬を過ごすレクリエーションとして始めた卓球は、呉羽中学校に入ると本格的となる。

「呉羽中学校の卓球部はその頃強かつたので、団体戦と個人戦でたくさん優勝しました。当時の呉羽中は今と違つて校舎が中庭をぐるりと囲む、すごく素敵なものでした。大会などで優勝すると、その中庭で表彰式があつて。その時の様子が中学校の思い

出として強く残つてますね」

その後は富山中部高校へ進学。

「高校へは毎日自転車。呉羽山を越え、神通川を越えて。風が強いときも立ち向かうように平気で通つてました。あれで体は鍛えられましたね。あと富山の食べ物。どれも美味しかった！風邪もひかないくらい頑丈に育つたのは富山での生活のおかげだと思ってます」

と言いますか、それしか選択肢がなかったんですよ（笑）。でも行つてみたらすごく面白くて。そのまま勉強するとして大学院にも行きました」として大学院にも行きました。追込まれた末に選んだイギリス科への進学が、その後の人生を左右する大きな出会いだったと語る。

ジエントルマン研究に熱中し、結果その道のエキスパートに

その後の人生を大きく変える
イギリス科への学士入学が、その後の人生を大きく変える

大学は東京大学文学部へ進む。そもそもファッショニ業界を目指していくわけではなく、ごく自然な流れで導かれていつたという中野さんの転機は、卒業後に決まっていた就職の内定を辞退したことだったという。

その後、渡英した中野さんは、当時イギリスで盛んに行われていたジエントルマン研究に熱中する。「ケンブリッジ大学に客員研究員として行きましたが、ケンブリッジの図書館にはジエントルマン論やダンディズムなど、男性のファッショニと階級との関係についての本が1コーナー分

あるんです。その歴史をたどつて勉強していたら非常に面白くて。そこで、『黒の夜会服・ダンディヒジエントルマン』という修士論文を書きました。そしたら、その修士論文を見たメンズファッション誌の方が面白いと声をかけられ、明治大学で特任教授に就くことになったという。

大学教授を任期五年・二期、十年間務めた中野さんは、「大学教授をやつていた途中から、『ブランドイングアドバイザーをしてほしい』といふお声がかかりまして。このホテル（ザ・プリンスパークタワー東京）もそうなんんですけど、その系列七ホテルのアドバイザーを務めることにこぎ始め、それをまとめて『スースの神話』という本ができました」

「今度はその本を見た新聞社から、おじさん向にファッショニのことを書いてほしい」と依頼を受け、『モードの方程式』という連載が始まりました。

これは着こなしの話ではなく、知的好奇心に応えるような内容で、例えば「ボタンダウンにはどういう意味があるのか？」とか。その連載は七年半続きました。毎週ありとあらゆるファッショニネタを書いて、結果的にその分野の男性も女性も歴史も、全部カバーするエキスパートになりました」と、今の礎を築いたエピソードを話す。

ファッショニに憧れた訳ではなく一生懸命やつていたここにいた

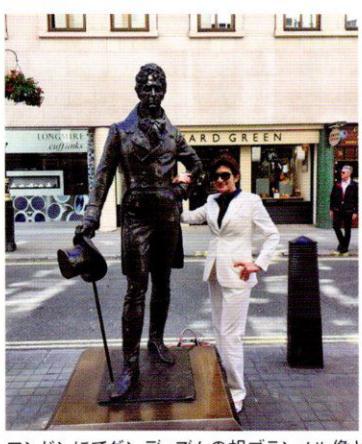
「私はファッショニが好きで目指した」というわけではなくて、とにかく目の前にきたものを一生懸命やつて

いたらお声がけを頂いて、それを受けて一生懸命やつていたら次のお話を来たつていうよ。そういうことの繰り返しなんです」との繰り返しなんです

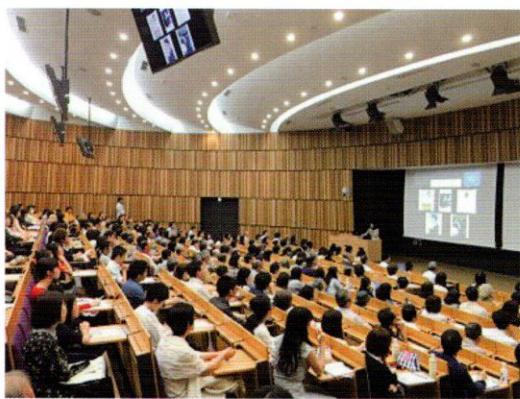
自身がやつてきたことの積み重ねが今に繋がっているという。

仕事は期待以上の結果を残す。じゃないと自分が納得できない

「大学は四年で卒業したんですけど、ちょうど男女雇用機会均等法が施行されるかどうかの時で、内定先から女性は一律、男性よりも10%給料が低いと言われたんです。それで考えた末、内定を辞退したんです。しかし行くところがない。どうしようかと思つていたら、学士入学を募集しているところがあつて。そこが教養学部のイギリス科でした。親に二年間だけと頼み込んで、とりあえずそこに籍をおきました。でも実は当時はイギリス文化がそんなに好きじゃなくて、巡りあわせが



ロンドンにてダンディズムの祖ブランド像と（2017）



明治大学特任教授時代（一般公開講座ではホールが満員に）

て。これがひとつの大好きなターニングポイントですね。スースでこれだけの内容の本を書くきっかけを与えていただいたという点で、やはり一番の恩師になりますね。でもそんなにべつたり教えていただいたわけじゃなく、ただチャンスをくださった」と言い、「そのチャンスをくださった方を絶対にがっかりさせてはいけないので頑張りました。いつも「依頼者の期待を上回らなければ」と心がけて、期待される以上の成果を出します」と、仕事に対する何事にも全力で取り組み、期待以上の結果を残さないと「次」は来ない、と熱い眼差しで真摯にお話いただいた。

ファッショントリックをはじめてお伺いすると、「仕事でホテルに携わるようになつたので、ホテルでお話しする」と心がけて、期待される以上の成果を出します」と、仕事に対する何事にも全力で取り組み、期待以上の結果を残さないと「次」は来ない、と熱い眼差しで真摯にお話いただいた。

何があつてもだいたい笑つている。周りを気にしないことが健康の秘訣

そんな中野さんに、健康で気をつけていることや食事などについてお伺いした。

「特にこれという健康法はないのですが、だいたい何があつても笑つてゐるんですよ。辛いことがあっても笑い飛ばすというか、物事を悪くとらないというか。終わりよければ良いんじやないつて。落ち込んで引きずることはないですね。私は会社員をやつたことがないですが、会社のコンサルティングをするときに、皆さん一番気にされるのが、上司や同僚がどう思っているか。だから“周りがどう思うか”を気にせずにやりたいことができてストレスがないことが健康の秘訣かもしれないですね。思い立つたらとりあえず行動してみます。周りからは浮いて見えるのかもしれないけど、全く気にならないです（笑）」届託の

ルについて書きたいなと思つています。コンサルティングをしながらいろいろ調べてはいるんですけど、依頼が来るのはやはりファッショントリックが多くて。でもファッショントリックの延長にインテリアがあり、その延長にホテルがあると思うので、そんなに無関係でもないです」と語る。

ない笑顔を見せる。

写真／佐藤 義徳

食事に関しては「あまりジャンクなものを食べないようにしています。時間がなくてどうしても食べなくてはいけない時もありますけど、ファストフードなどはなるべく避けるようにしています」

人間は口から入ったものが細胞になるわけで、添加物が多いものなど食べると、どうしても内臓に負担がかかりますよね。だから極力食べないようにしていません」とのこと。

地元の新聞が発行している地域情報誌で八年半連載している『ファッショントリック』が一〇〇回を迎えた。「おかげ様で富山に帰ると、『読んでますよ』と言われることが多いですね。現在、唯一富山との接点になつてます」と、地元との関わりについて嬉しそうに話す。今後はファッショントリックを飛び出して、様々なテーマにチャレンジしていくみたいと言ふ中野さん。

新しい」と、楽しいことを常に摸索し、何より自分が一番ワクワクしている、天真爛漫に語る中野さんの活躍から目がはなせない。



中野香織さんプロフィール

1962年、富山市生まれ。服飾史家として研究・執筆・講演。総合研究所 株式会社Kaori-Nakano代表取締役として企業の顧問・アドバイザーを務める。昭和女子大学客員教授。

大学在学中（19歳）に旅行ライターとして文筆業デビュー。東京大学文学部卒業後、教養学部（イギリス科）に修士入学・卒業。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学（1994年）。東京大学非常勤講師ケンブリッジ大学客員研究員（1998年）、総合研究所株式会社Kaori Nakano設立。2019年、昭和女子大学客員教授。

著書／「インベーター」で読むアバール全史（日本実業出版社）、ロイヤルスタイル 英国王室ファッショントリック（吉川弘文館）、「紳士の名品50」（小學館）、モードとエロスと資本（集英社新書）、ダンディズムの系譜 男が憧れた男たち（新潮選書）、愛されるモード（中央公論新社）ほか。監訳／「シャネル、革命の秘密」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）など翻訳も手掛ける。英和ファッショントリック用語辞典（研究社）監修。共著／「フォーマルウェアの教科書（洋装・和装）」（一般社団法人日本フォーマルウェア文化普及協会）。

新聞・雑誌・ウェブでの連載記事多数
公式HP www.kaori-nakano.com